

## I 実践

## 1 研究主題「判断力をもち、主体的に行動する生徒の育成」

## (1) 主題設定の理由

本校では「滑川中学校教育プラン」として、生徒育成の柱に、強く（たくましい体の育成）、豊かに（学力の向上）、正しく（思いやりの心の育成）を掲げ、教師を3つのグループ（体グループ、学力グループ、心グループ）に編成し、教育活動に取り組んでいる。

本年度の心グループが設定しためざす生徒像は、「判断力をもち、主体的に行動する生徒」である。本校の現状として、自律的・自主的行動ができる生徒が増えてきている。しかし、一部の生徒に自己中心的な言動が見られる。そこで、昨年度から基本理念に掲げている「自立」と「貢献」を柱に心の教育を展開することが必要であると考え、本主題を設定した。

## (2) 研究の内容

ア 人権教育の課題把握（「法務省：令和元年度啓発活動強調事項」より抜粋）

- |               |                    |
|---------------|--------------------|
| (ア) 子どもに関すること | (カ) 同和問題に関すること     |
| (イ) 女性に関すること  | (キ) ハンセン病・HIV感染症等  |
| (ウ) 高齢者に関すること | (ク) インターネットによる人権侵害 |
| (エ) 障害者に関すること | (ケ) 東日本大震災に関すること   |
| (オ) 外国人に関すること |                    |

イ 一人一人を大切にした授業の展開

ウ 道徳教育の充実

エ 思いやりの心を育てる活動

- (ア) 朝読書の時間における「人権作文集」の活用
- (イ) あいさつ運動
- (ウ) 「hyper-QU アンケート」や「学校生活アンケート」を活用した生徒理解
- (エ) 生徒会活動（生徒総会、体育祭、文化祭、「Beauty 4」の実践）
- (オ) 地域社会との交流
- (カ) 学校日より、学年だよりによる家庭への啓発

## 2 実践事例

## (1) 朝読書における「人権作文集」の活用

本校では、朝の10分間を読書の時間としている。その中で、本の代わりに「人権作文集」を読む日を設けて、中学生が書いた人権作文にふれる機会を増やした。

## (2) あいさつ運動

本校では、毎朝登校時にあいさつ運動を行っている。月曜日は生徒会役員、火・木・金曜日は生活委員、水曜日は学級や部活動ごとに順番で生徒と保護者及びPTA役員が昇降口に立ち、感染症対策を十分行いながら、登校してくる生徒へ元気に挨拶をしている。

## (3) 「hyper-QU アンケート」や学校生活アンケートの活用

全学年において「hyper-QU アンケート」を1、2年生は2回（5月と11月）、3年生は1回（5月）実施した。結果を各担任が分析し、学級全体の傾向や配慮を要する生徒への今後の関わり方について検討した。また、学校生活アンケートを毎月行い、生徒一人一人の学校生活の把握に努めている。

## (4) 新型コロナウイルス感染症に関する滑川中学校人権宣言の制定

新型コロナウイルス感染症に関する人権侵害を許さず、あらゆる人の人権を大切にするという目的の基、「な・め・か・わ」の合言葉で滑川中学校人権宣言を制定した。各学級で、担任から話をして教室に掲示した。

(5) 生徒会活動 「Beauty 4」の実践

生徒の自立を促したり、思いやりの心を育んだりするために、生徒会から「Beauty 4」を提案した。「身の回りの Beauty」、「授業の Beauty」、「内面の Beauty」、「外面の Beauty」を滑川中生の基本として実践している。

3 成果

- (1) 朝読書における「人権作文集」の活用では、それぞれの視点で書いた人権作文を読むことで、人権について様々な視点から考えることができた。道徳の時間でも活用できる資料が多く、生徒の人権意識の高揚につながった。
- (2) あいさつ運動は、生徒自ら積極的に挨拶をする習慣の定着に役立っている。地域の方に挨拶をする生徒が増えて、地域への貢献にもつながった。
- (3) 「hyper-QU アンケート」の活用では、結果を分析することで、生徒の実態を把握し、今後、生徒をどう支援するかを考える手立ての一つになった。毎月実施している学校生活アンケートでは、生徒が抱えている不安や問題を把握する手段の一つとなっている。担任を中心に定期的に面談を行うなどして生徒の不安を取り除き、安心な学校生活を送ることに役立っている。
- (4) コロナ禍の状況で市内でも感染者が確認されるようになった。「滑川中人権宣言」を活用してコロナ差別を許さないという雰囲気为学校全体でつくっている。
- (5) 「Beauty 4」を実践することで、自ら4つの Beauty を意識して生活できる生徒が増えた。誰もが安心してよりよい学校生活を送るために、今後も継続していくことが大切である。

II 今後の課題

各教科や道徳、総合的な学習の時間、学校行事など教育活動全体で、人権に対しての取組をさらに充実させ、生徒一人一人の人権感覚や人権意識を高めていきたい。新型コロナウイルスの影響で生徒が様々な場面で不安を感じることも多くなっている。日頃から生徒の人権意識を高めて、コロナ差別はあってはならないという態度を醸成していくことが課題である。

III 人権コーナーの設置について

今年度は「滑川中人権宣言」を制定した。各教室と人権コーナーに掲示した。

